

原則 実施要領マニュアルは 18NSJ日本一プログラム

<https://doc.18nsj.scout.or.jp/program/bij/guide-for-staff.pdf> ……に準じます

Q&Aの中で 上記マニュアルからの引用表現には ○○○○ ……と明示しております

【すでにお知らせした資料は…】

令和6年9月12日付 千葉県連盟結成75周年 部門別記念事業の実施について 添付資料③-1・③-2

令和6年10月23日付 BS部門記念行事『千葉県一プログラム』 (末尾に問合せ先を記載してます)

令和6年10月31日付 BS部門記念行事「千葉県一プログラム」『補足資料』

……上記資料を熟知の上 下記Q&Aも参考に 地区大会を開催され 部門ごとの1~3位を選出していただき、県大会において 千葉県一の総合優秀班を表彰し 千葉県連盟結成75周年の記念行事として盛り上げたく存じます。

共通補足事項

番号	質問 (上段)	回答 (下段)	備考
Q-1	【班編成】 参加人数は？ 我が班は3人の少人数ですが… A-1 参加は、 <u>原隊「班」単位での参加を原則とします。単独班では必要人数に満たない場合は、2つ班以上の合同班も可とする。その人数いずれも5人~8人とします。1つの班の人数については、原則5人以上としますが、5人未満での参加も可能。ただし 人数による競技調整加点はありません。</u>		
Q-2	【競技場所】 県大会の開催日時・開催場所・案内は？ A-2 地区代表 各種目の上位3個班(優勝、準優勝、3位)による県連盟大会は令和7年3月9日(日)に実施予定です。(予備日3月16日(日)) 場所 詳細については 追ってご連絡します。		9月12日付 通知
Q-3	【補助予算】 各地区に 資材などの準備としていくら補助がありますか？ A-3 各地区に 資材購入準備金として 5,000円が支給されます。		

プログラム① 班旗立て「我が旗かざし」

番号	質問 (上段)	回答 (下段)	備考
Q-1	【競技開始】 競技は班対抗のタイムトライアルですが、開始と完了のタイミングは？ A-1 <u>指定された場所で 主催者準備の資材で 3本の班旗棒をひもで縛ってつなぎ合わせた「班旗」を作って自立させ、その速さを競う競技です。</u> 開始: 『スタート』の合図で班旗立てに取りかかり、計時がスタートします 完了: 全スカウトが手を離れた状態で『完成宣言(できました)』したら、そこから15秒間の自立を審判が確認し、直ちに高さ確認し、クリアしたら計時ストップで完了です		
Q-2	【張り綱】 取付位置 ペグの本数・位置は 任意とありますが…？ A-2 張り綱4本とペグ4本は1セットとして各班に渡されますが 4本でなく 3本のみでの使用でも可とします。 自立15秒の完了・指定高さ以上のタイムトライアルです。 張り綱は、参加者の個人装備 スカウトロープ(6m)を使用して、持ち込み班備品でもあるハンマー1本のみで 固定運用の事。		
Q-3	【資材の竹】 用意された竹を使用とあるが、大会において主催者側が用意するものか？ A-3 竹の太さ 径3~5cm程度のを主催者で用意します。【長さ 1.5m x 3本】 地区大会において 県大会においても それぞれで用意してください。 * 結束の早さ・高さも競技内容の1つです。		
Q-4	【棒をつなぐ】 結びの指定はありますか？ 主催者で用意される縛るロープの太さは？ A-4 <u>結びの種類は、各班でかんがえます。</u> <u>ボーイスカウト部門の進級項目にある結びを基本とする。</u> 縛るロープは 火おこし競技と同じ太さ8mmの麻縄(ジュート麻)です。 約1.5m x 3本 準備されます。(どこにどのように縛り 自立できるかを考える)		
Q-5	【準備品】 参加班の準備品は？ 主催者の準備品は？ A-5 参加班の持参品 ①班旗 (普段使用しているものを班旗棒からはずして使用) ②ハンマー X 1本(ペグ打ち用) ③張り綱(スカウトロープ6m) X 4本 主催者準備品 (参加班毎) ①班旗棒 : 竹 (長さ 約1.5m) x 3本 ②棒と棒を縛るひも (約1.5m) X 3本 (変更前 1.0m) ③ペグ X 4本 * 班旗の高さ計測用の3mの棒		9月12日付 添付資料③-1

プログラム② 火おこし「火を絶やすな」

番号	質問 (上段)	回答 (下段)	備考
Q-1	【競技開始】 競技は班対抗のタイムトライアルですが、開始と完了のタイミングは？ A-1 火を使うゲームにつき かまど設営に制限がある為(立ちかまど・平地でのブロック利用)を考慮し 競技は 麻なわの焼き切りのタイムトライアルとする。かまどの制作競技としない。 開始: 所定の高さに麻なわをセットし 焚き付け・薪をセットし マッチ準備OK状況とする スタートの合図で 点火し競技が開始される。 完了: <u>麻なわが焼き切れ、重石が地面に着いた時に 計時が終了します。</u>		
Q-2	【麻なわ】 麻なわの太さについての競技統一は？ A-2 使用する麻なわは <u>タカショー 麻なわチーズ巻726ANC-726 Φ8mm</u> <u>早瀬工業株式会社 ジュートロープ(麻縄)726 Φ8mm Amazon取り扱い</u> とする		
Q-3	【焚き付け・薪 ①】 焚き付けと薪は どんなものを使用して良いのか？ A-3 <u>薪と焚き付けの種類は「自然の樹木」とし、参加班でそれぞれ用意・持参し使用。</u> <u>薪の量は指定の袋(土嚢袋)1つに入るだけとします(完全に口が閉じている事)</u> <u>薪の長さや太さ、またその配分は班で考え用意します。</u> <u>競技中に、「ナタ等刃物で薪等を切る・割る」はできません。</u> <u>焚き付けの量は指定の袋(ジップロック)1つに入るだけとします(完全に口が閉ざされている事)</u> 『自然の樹木』との指定ですが、具体的には？ × 油のついた小枝・かんなくず・着火剤・新聞紙・竹・麻ひも・加工された平板・落ち葉(枯葉) ○ 公園などに落ちている枯れた小枝 (注意 落ち葉は不可) ○ 市販の天然薪を事前にナタ等で細かく・短く工作した自然樹木 × 割りばしを ナイフ等で細かく切り裂いて燃えやすくした工作物		
Q-4	【焚き付け・薪 ②】 焚き付けと薪の準備は 班とあるが 主催者側で用意して 統一資材での 同一条件下でのタイム競技が良いのでは？ A-4 よく燃える自然木をさがしあて、何度も挑戦させてスカウトスキルを向上させて スカウト 一人ひとりの成長につながる機会とする目的につき 各々班の持ち込みとします。		
Q-5	【焚き付け】 焚き付けの認められた量(容器)は？ A-5 9月12日付け資料には 紙コップ(150ml) 1つ分とあり、日本一プログラムには <u>ジップロック</u> (イージージッパーLサイズ 279mmX268mm)の同等品に入るだけとありますが 紙コップに統一します (山盛りでなく、口からはみ出していない事)		
Q-6	【着火】 着火はマッチ使用ですか？ A-6 <u>マッチ2本以内で火が付かない場合は失格となります。ですので、マッチの軸にしっかりと</u> <u>火を移してから、焚き付けに着火します。</u>		
Q-7	【火おこし】 かまどの火が燃えている際のルールは？ A-7 <u>かまどの火が燃えている間に、残った「薪等」を追加することは 可である</u> <u>うちわや火吹き筒等を使って空気を送ることは不可であるが、口で吹くのは 可</u>		
Q-8	【かまど】 マニュアルに 軽量ブロックを使用しての『かまどの作り方』とあるが？ A-8 必ずしも軽量ブロックのかまどでなくても良しとします。 必須事項は 焚き付け(薪)の高さ制限・燃えつきるヒモの高さ です。 それをクリアーされて 火を使用できる許可されている場所(既存の設置かまど)にて競技してください。 ★県大会は 火使用の諸条件の他 駐車場の確保の点を考慮して 船橋市立青少年キャンプ場『大神保』 において既存のかまどを利用して 競技を予定しております。ご理解ください。		
Q-9	【準備品】 参加班の準備品は？ 主催者の準備品は？ A-9 参加班の持参品 ①軍手または革手袋(各自で) ②薪 : 土嚢袋(市販62X48cm程度以下)で1袋以内(袋の口が閉じられている事) ③焚き付け : 紙コップ(150ml)または ジップロックLサイズ 1つ分 主催者準備品 (参加班毎) ①かまど (軽量ブロック+BBQ網などで火おこし可能な環境とする)(既存かまども可) ②麻ひも : Φ8mm 長さ 120cm x 1本 ③重石 : 大き目の麻ひもに結ぶ石 x 2つ ④マッチ : 2本 / 班 ⑤火ばさみ : 2本 / 班 ⑥消火に必要な道具(金属製のバケツや缶、ちりとり、スコップなど) ⑦防火用水 : 水が入ったバケツ		9月12日付資料 日本一プログラム

プログラム③ 計測「正確に測ろう」

番号	質 問 (上段)	回 答 (下段)	備 考
Q-1	<p>【競技内容・計測】 具体的にどのような競技内容なのか？</p> <p>A-1</p>	<p>18NSJ日本一プログラムにはありませんが、教育規程 技能章課目『11. 計測章』に</p> <p>(1) 自分の体や身近にあるものを用いて簡単な計測を行う。 (2) ロープに1m刻みの目盛りを施し、計測に使える。 (3) 100mの距離を誤差5%以内で歩測する。 (4) スカウトペースで2Kmを15分で移動する。 (5) はかりや計量器を使わずに、1合の米、1Lの水を15%以内の誤差で量る。 (6) 自作の簡易測量器具を使い、樹木などの高さを誤差10%以内で測る。 (7) 簡易測量法を用い、到達できない2点間の距離(長さ、高さ)を誤差10%以内で測る。 (8) 計測を取り入れた集会を計画、実施を行う。 ……とあります。</p> <p>今回の競技プログラムは (3)歩測 (5)計量です。 地区大会において 2項目を地区独自の内容で計画され競技としてください。 県大会においては 2項目の競技内容の具体的内容について 当日 会場にて発表いたします。</p>	
Q-2	<p>【競技のトライアルメンバー】 2項目の競技とあるが 班を分けて参加して良いか？</p> <p>A-2</p>	<p>競技の特性上 2つのグループに分けて参加できます。 ただし 2人以上のグループ編成としてください。 トライアルメンバーとして (3)歩測に2人 (5)計量に3人の如く 5人の参加班を分けて良い。(一例) ただし 回答は 班統一の1つの回答を提出ください。</p>	
Q-3	<p>【持ち物】 当日の参加者の持ち物としては？</p> <p>A-3</p>	<p>特段の持ち物はありません。筆記具のみが必要になります。</p>	

以 上